

■肢体不自由のある子どもたち・院内学級の子どもたちへの実践事例

肢体不自由の子どもたちや院内学級の子どもたちの可能性を伸ばす

——マルチメディアDAISY図書活用の試み

東京都立光明特別支援学校・東京都立光明特別支援学校そよ風分教室
遠 直美・矢下 容子・禿 嘉人

はじめに

本校は、肢体不自由のある子どもたちが多く学んでいる特別支援学校です。また、国立成育医療研究センター内に院内学級として療養中の子どもたちが通うそよ風分教室が設置されています。「子どもたちの夢や希望を叶える学校」を理念に、児童・生徒の可能性を信じて最大限に伸ばし、それぞれの役割に応じた自立と社会参加を目指しています。

教育目標は、以下の通りです。

- ①健康で安全な生活を送るための力を身につける。
- ②自ら学ぶ意欲と確かな学力を身につける。
- ③豊かな感性を育み、心豊かに生活できる力を伸ばす。
- ④互いの人格を尊重し、社会の中で協力・協働していく力を育む。

マルチメディアDAISY図書の活用は、

- ①と②に深く関わるものであると考えます。マルチメディアDAISY図書を活用することは、一人ひとりのニーズに応

じた教育実践が求められる中、基礎・基本の学習力・コミュニケーション力・情報収集力をつけることにつながります。

肢体不自由のある子どもたちにとって、本のページをめくることがや小さい字を読み取ることに困難さを感じ、読書という習慣が身につかない現状があります。また、そよ風分教室では、紙の本を病室内に持ち込むことができない場合があるなど衛生面での制約や外部とのかかわりが制限されていることなどから、情報機器を活用することが求められています。

子どもたちの興味・関心や学習への意欲を引き出すために、どのような活用方法があるのか探りながら実践しているところです。

高等部での活用

(1) 研究テーマ

「肢体不自由の子どもたちの可能性を伸ばすマルチメディアDAISYの試み」

(2) 研究目的

肢体不自由のある子どもたちの可能性を最大限に引き出すためのマルチメディアDAISY図書の活用を行う。

- ①本を読むことの楽しさを知り、学習への関心や興味・関心を広げる。語彙力・知識・読解力・情動を育てる。
- ②自分で本が読める喜びを通して自己効力感を育み、余暇活動としての活用を試みる。
- ③群読など声を出して読むことで発声力をつける。

(3) 活用の実際

- ① 対象：高等部の生徒

教育課程：主に知的代替の課程

- ②活用の場面

学校…個別の学習の時間・生活単元の時間・休憩時間など

家庭…長期休業中や土日

- ③活用に際しての配慮

- ・生徒の実態に応じて、作品を選ぶ。視覚支援を要する生徒、個人で視聴できる生徒、視聴には支援を要する生徒など実態はさまざまです。
- ・活用する場面に応じて、作品を選ぶ。授業で活用する場合には、その内容に応じた作品を限られた一覧の中から選ぶ必要があります。

- ④活用に際して期待する学習効果

- ・語彙や文章の理解が増え、正確に読み取ることができる。→学習の意欲

が向上する。

- ・わからないところを繰り返し見ること、本の内容の理解が深まる。
- ・自分で読めることで自分でもできるという自己効力観が育める。また、人の手を借りずに自分で取り組めるので自立心が芽生える。
- ・余暇の過ごし方の一例となる。

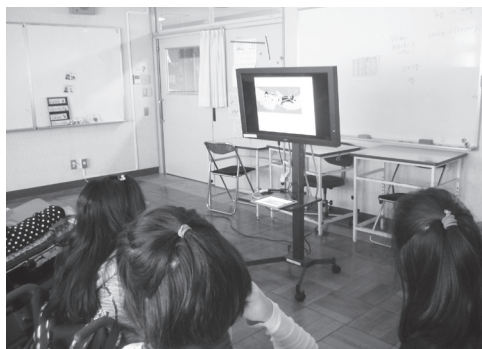


写真1

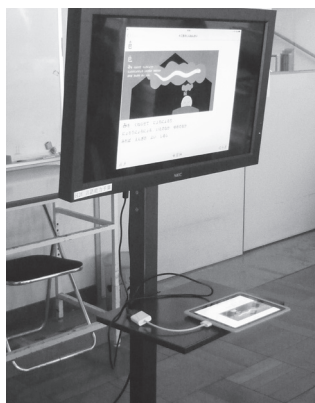


写真2

(4) 豊かな感性を育み、心豊かに生活するために —作品と生徒の様子

『あいうえおにぎり』

9分の時間、あきることなく画面に集中できます。言葉のフレーズがリズムカルで、生徒の興味・関心を引きつ

けます。朝の会などでの群読に活用すると日頃声の出にくい生徒にとって発声を促すことにつながると考えます。

『おおきなかぶ』

どの生徒にとっても繰り返し読みたいという作品です。紙芝居風のものがとくに気に入っています。繰り返しの言葉が興味・関心を引き出し、内容がわかりやすく理解しやすい作品です。簡単な役割分担で、劇などに取り組みやすいものです。

『はらぺこあおむし』

有名なお話なので、小さい頃に読んだことがある！という生徒もいました。滑らかな読みは心地よさを感じさせ、彩りのいい絵は気持ちを和ませる作品です。数の学習にも応用できる作品です。

『さるかに』

10分の内容ですが、カニが死んでしまうところや、サルがやられるところを視聴すると「こわいからいや！」という生徒もいましたが、読み終わった後になぜサルがやられたのかと内容を振り返ることで、理解を促しました。本の内容を通して道徳的要素のある学習ができました。『わらしべ長者』や『ももたろう』などの昔話シリーズを今後も活用していきたいと思います。

『わにさんどきっ はいしゃさんどきっ』

以前は「歯医者さん怖いんだよ」と言っていたのですが、今では演劇風のセリフを楽しめるようになりました。お医者さんに行くことに抵抗感を感じている児童・生徒も多いのですが、小さい頃からこのような絵本に取り組むことで先入観を取り除くことにもつながることに期待できる作品です。

(5) 自ら学ぶ意欲と確かな学力を身につけるために—作品と生徒の様子

『おすもうシリーズ』『国会シリーズ』

『古都 京都の旅』

主に自分で視聴できる生徒が、好んで選んでいます。「社会の学習がすき！」中学まで各教科で学習してきた生徒にとって、新たな知識が増える機会にもなりました。「学びたい」「もっと知りたい」という学習意欲につながる作品です。いろいろなジャンルがふえることに期待しています。

『十二支のしんねんかい』

12月が近づく中で、集団で視聴した作品です。「来年の干支は？」「自分の干支を知っているの？」「家族の干支を知っている？」などと問いかけながら楽しく学ぶことができました。学習要素をいろいろな作品の中から選ぶことで、知的好奇心を促すことが期待できると思います。

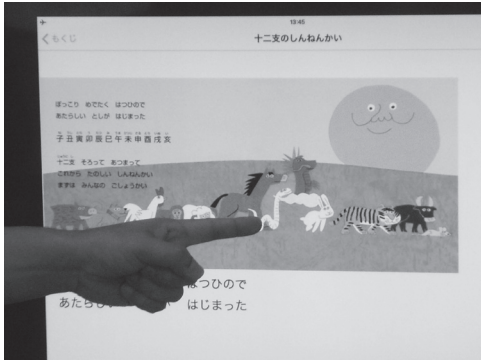


写真 3

『キャンプでカレーライスを作ろう』 『パパンがパン』

家庭科の学習や移動教室などでカレーライスを作る事前学習などの学習に活用できます。『パパンがパン』は単純な内容ですが、劇団員のリアルなセリフや、「次に何が出てくるのかな？」と期待感をもたせることができました。

この他にもたくさんの作品をどのような学習に活かしていくのか、私たち教員も一定の枠組みの思考で考えるのではなく、豊かな創造力で活用していくことが望まれるところです。

(6) 今後の課題

まだまだ、一定の時間を決めて継続指導することができない状況です。そのような中で、何を目的に取り組むのかねらいを定めて実践していきたいと思います。個人で取り組むとき、集団で取り組むとき、何をどのように活用するかその目的がはっきりしていれば、

子どもの変容もみることができます。

経験・体験不足が否めない肢体不自由の子どもたちにとって、今後もマルチメディアDAISY図書の機能を有効的に活用し、豊かな感性と自ら学ぶ意欲を育みながら取り組んでいきたいと思えます。

院内学級での活用

(1) 研究テーマ

「長期入院中の子どもたちの興味・関心を広げる読書の試み」

(2) 研究目的

病気治療のため長期入院している子どもたちは、活動の内容や活動場所に制限がある場合が多いため、興味や関心の幅が狭くなってしまうことがあります。そこで、子どもがさまざまな本に触れる中で、自分の好きなことや楽しみなことを少しでも増やしていきたいと考えテーマを設定しました。

(3) 活用の実際

①対象：そよ風分教室（院内学級）に在籍している小学5年生。昨年度は、水族館や自動車の読み物を活用していました。

②活用の場面：分教室に登校ができないため、病室内で実施しました。

③子どもの様子

対象となる子どもは、障害がたいへ

ん重いことから、読む速度がゆっくりで出てくる言葉が短めで繰り返しがあることや声質に変化があることから『くださいな』を選び、繰り返し活用しました。

取り組みを始めたころは、子どもにほとんど変化が見られませんでした。何度も活用し続けていると、SpO₂^{*}や心拍に変化が見られるようになりました。変化は± 1～2ですが、最初の変化が見られるのは「いらっしやいませ」と子どもの声を聞いたときが多く、声が変わったことを感じ取っているように思われます。病室内で行う授業は、ほぼ一人の教員の声となるので、いろいろな声質を聞くことが刺激になって

いるようです。

病室内で子どもと教員が1対1で行われることが多い授業の中で、紙芝居風マルチメディアDAISY図書のにぎやかな雰囲気は、他では得られにくい貴重な経験になっています。

(4) 今後の活用方法と課題

重度の障害のある子どもにとって、いろいろな人の声で読み上げてくれる音声図書はたいへん重要なものです。変化にとんだわかりやすい物語など、今後も障害の重い子どもたちが楽しめるマルチメディアDAISY図書が充実することを期待しております。

* SpO₂：動脈血酸素飽和度
血液中の酸素飽和度のこと。

